

令和3年度 日臨技中部圏支部医学検査学会（第59回）の開催にあたって



一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
中部圏支部長 浅野 敦

令和3年度日臨技中部圏支部医学検査学会（第59回）が一般社団法人富山県臨床検査技師会の担当において開催されるにあたり一言ご挨拶申し上げます。

中部圏支部医学検査学会（第59回）は、令和2年10月31日～11月1日の開催が予定されていましたが、2019年12月に感染が確認された新型コロナウイルス感染症の世界的感染拡大の影響により止む無く延期となりました。その後一年が経過しようという現在も感染の収束にはいたらず行動等の制限が繰り返されていますが、WEB形式による開催が実現いたしました。

本学会は「harmony」～次世代へ進む検査 繋がる検査～をテーマに2021年9月25日～10月24日にかけてオンデマンド配信されます。日臨技企画として宮島喜文 日臨技代表理事会長から「タスクシフトの本質と臨床検査技師の未来について」の講演、富山大学附属病院 検査・輸血細胞治療部 部長 仁井見 英樹 先生からの特別講演、また特別企画として丸田 秀夫 日臨技代表理事副会長から「タスクシフト/シェアに関する制度改正の経過と今後の対応」、滝野 寿 日臨技専務理事から「品質保証施設認証制度の概要」の講演をいただくことを予定しています。その他にも、支部シンポジウム、部門別企画、一般演題、メーカーWEBセミナー、機器試薬WEB展示と企画が盛りだくさんの学会です。

現在、医師の働き方改革実現への取り組みが進められています。医師に対して時間外労働の上限規制が適用される2024年4月に向けて、労働時間短縮を強力に進めていくための具体的方向性の一つとして他職種へのタスクシフト/シェアが挙げられました。臨床検査技師に対しては、現行法で実施可能な業務のみならず法令改正を行ってタスクシフト/シェアを推進していく業務も8項目加えられることとなりました。振り返ってみますと、近年の中部圏支部医学検査学会のサブテーマに、“チーム医療”や“パラダイムシフト”という言葉が取り上げられてきました。検査室の中だけでの業務に留まることなく、医療のニーズに合わせて他職種と連携していくことが重要であるという認識の元、今後の方向性を見定める機会となるよう学会が企画されたと記憶しています。この臨床検査技師に対してのタスクシフト/シェアは、まさに“パラダイムシフト”“チーム医療”に係る、臨床検査技師が医療スタッフの一員として今まで以上に活躍していくチャンスが与えられたのだと考えます。すでに日々の業務は多忙を極める臨床検査技師ですが、それぞれの機関の性質を精査して、医療をより効果的に進めていくために取り組むべき業務は何であるのかを本学会を契機に協議してはどうでしょうか。臨床検査技師は、将来に向けて岐路に立たされているものと思います。

部門別企画は9部門すべてで企画をしていただき、また一般演題は103題をいただきました。現地開催型の学会では、“聞き逃してしまった”“スライドが良く見えなかった”ということがありますが、オンデマンド配信は自身のタイミングで繰り返し視聴可能であることが最大のメリットです。多くの会員がこのメリットを生かして、今後の臨床検査業務への啓発となる学会となることを祈念しております。

最後に、2年越しで学会を企画・準備していただいた 南部重一 学会長はじめ、富山県臨床検査技師会の学会実行委員ならびに実務委員の方々のご尽力に心より感謝申し上げますとともに、新型コロナウイルス感染症が一日でも早く終息し、皆が明るい笑顔で日々の暮らしを送れるようになることを切に願っております。